



グローバル トレーディング事業

RESOURCE CIRCULATION BUSINESS

◆ 競争優位性(強み)

01. グループの選別技術 × NEWSCONの国内・海外ネットワーク力

02. 全国各地の港を活用した自社ヤードオペレーション力

03. 海外拠点を中心としたビジネス創出

04. 通関業の内製化による高い専門性

05. スケールメリットを生かした安価な仕入れ

06. 外国籍の顧客に対する商習慣や文化についての理解

◆ 背景・社会課題(事業環境)

■ 世界

米国を取り巻く関税問題、中国経済の転換期、地政学的リスク

■ 国内

2024年問題起因の人手不足による建設工事の遅れによる鉄鋼製品需要減退

■ 業界

不適正ヤード問題による過当競争激化、新車の発生台数の減少、自動車産業の変革期

NEWSCON

市場変化に対応した ビジネスモデルの転換



APPROACH 01 | 取り組み 01

適材適所の 資源循環を支える供給体制

(株)NEWSCONでは、全国の港に集荷した鉄スクラップを、顧客のニーズに沿った品質管理を行った上で、国内外の鉄鋼メーカーへ販売しています。近年では国内電炉メーカーである東京製鐵(株)との協業が始まっており、国内資源循環の一翼を担っています。また輸送に対する物流方法も多様化する中で、バルク船のみならずコンテナ輸送も積極的に行い、国内、近隣アジア、遠方への販売体制を構築し、鉄鋼原料の資源循環に貢献していきます。

APPROACH 02 | 取り組み 02

欧州拠点を活用した グローバル資源循環ネットワークの構築

(株)NEWSCONでは、従来の鉄スクラップ中心のビジネスモデルから新たな商材へのビジネスモデル変革を進めています。例えば、欧州から石炭代替燃料となるタイヤチップを輸入する等、新しい循環の形を創出しています。また2023年には、オランダ・ロッテルダムに支店を開設し、欧州のリサイクラーや取引先との連携をより密接に行える体制を整えています。「世界を舞台に未来を創る」というコンセプトの下、リサイクル資源を必要とする場所に適切に届ける事を使命とし、カーボンニュートラルへの貢献もグローバルな視野で捉えて今後も挑戦し続けていきます。



既存事業の深堀り及び 通関業を全面に打ち出した 他業種開拓

APPROACH 01 | 取り組み 01

業界を問わない 多角的な事業展開を行う 総物流会社へ

(株)サイテラスでは、短期的には既存事業の深堀りとして、2025年6月期は内陸国向けのSOC*案件を中心に成果を上げてきましたが、2026年6月期以降は向け地の分散、新たな向け地の開拓を行い、バランスの取れた出荷を目指していきます。また国内の営業先として関東は市場規模が最も大きく未開拓地域も多く残っているため、これまで以上に同地域において営業に注力しシェア拡大を進めていきます。そして長期的目標である他業種開拓のため、2025年6月期は雑貨、ソーラーパネル、万博関連商材等の手配を行っていましたが、今後もこの流れを変えず裾野を広げていく計画です。

※SOC：荷主自身が所有する海上輸送用コンテナ

イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの成長戦略

エンビプログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション

INTERVIEW

新たなビジネスモデル・ サテライトヤードを展開 時代に沿った港の活用への挑戦

株式会社NEWSCON

製鋼原料部 副部長

土橋 涼

製鋼原料一課 主任

渡邊 嘉弘

製鋼原料一課 課長

勝又 勇

製鋼原料一課 主任

望月 大和

NEWSCONサステナビリティレポート座談会

—鉄鋼ビジネスを取り巻く環境が大きく変化していますが、現状はいかがでしょうか。

土橋 鉄鋼輸出ビジネスは競争が激化し、シッパーと呼ばれる港湾事業者は苦戦を強いられています。こうした環境下で、当社は船橋と尼崎で東京製鐵様と協業し、サテライトヤードという新たなビジネスモデルを展開しています。

勝又 グループ内での役割は海外トレーディングが中心でしたが、最近では国内循環型ビジネスへの転換も進めております。韓国、台湾、ベトナムといった従来市場以外のバングラデシュ、インドといった新興国マーケットへの販路拡大も進めています。

—サテライトヤード事業の特徴を教えてください。

土橋 サテライトヤードは、相場リスクを負わない安定的な事業モデルです。一方、その他のヤードでは在庫販売も継続し、リスクとリターンバランスを取っています。私たちは「取扱量」ではなく、船積という「機能」を提供しているのが最大のポイントです。2024年問題で陸送が制限される中、船舶による大量輸送はCO₂削減にも貢献でき、複合的な価値提供が可能です。

—現場オペレーションではどのような取り組みをされていますか。

渡邊 現場では「ゼロ災害・ゼロ事故」を大前提に、サステナビリティを意識した運営を心がけています。オペレーターのスキルアップにより重機の燃料消費を削減し、マニュアル作成による標準化を進め、責任者不在でも個々が役割を果たせる体制を構築。口頭で伝承されてきたノウハウをデジタル化し、誰でも閲覧できる形で共有することで、全体のレベルアップを図っています。

望月 尼崎では東京製鐵様の荷物を船で運んでいるため、入荷量に応じた配船計画や在庫管理が重要です。そのため、横に広いヤードレイアウトを活かして重機のポジショニングや車両動線を実線でリアルタイムに調整し、作業効率を最大化しています。

イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビログループのあゆみ

エンビログループの成長戦略

エンビログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション

勝又 尼崎と船橋は国内向けですが、名古屋、静岡の田子ノ浦と清水、新潟では国内向けは勿論ながら輸出も継続し、国内外どちらにも対応できる体制です。品質管理を徹底し、どの出荷先でも受け入れられる高品質な荷物の提供を目指しています。また、コンテナを使った小ロット遠方販売にも積極的に取り組んでいます。一方、新人教育では動画教材を活用し、業務上の注意点やスピード感を学んでもらうようにしています。

—今後の展望についてお聞かせください。

土橋 NEWSCONの最大の特徴はエンビプログループとしての信用力であり、お客様と共に持続可能な形で運営続けることが根本にあります。当社のオペレーターが扱った荷物は安心できると評価いただいており、品質面での差別化が実現できています。

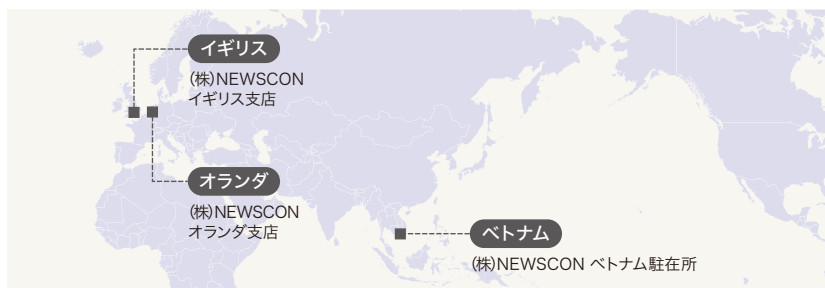
勝又 近年、製造業の海外移転などにより金属スクラップの発生量が減少傾向にありますが、こうした環境だからこそ、既存のお客様に「同じ価格ならNEWSCON」と言っていただけるような営業力を高めていく必要があります。そして、相場に左右されない仕組みづくりや取り組みを強化し、より付加価値の高いトレーディングを実践していきます。

望月 さらに、清潔感のある対応を心掛け、東京製鐵様にとってなくてはならないパートナー会社となることも重要です。

土橋 国内では東京製鐵様との協業により「港を活用した新たなビジネスモデル」を増やす一方、海外においてはベトナム、イギリス、オランダに拠点を設け、リアルタイムな情報収集を行っています。そして今後も市場環境に応じて国内外双方のニーズに柔軟に対応し、持続可能な資源循環の実現に向けて挑戦を続けます。



■ 海外拠点



イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの成長戦略

エンビプログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション



INTERVIEW

拠点統合とDX推進で組織力を強化 業務改革で実現する サステナブルな成長基盤

株式会社サイテラス

名古屋拠点 業務部 主任

前田 真由子

大阪拠点 通関課

中津 陽子

横浜拠点 通関課 主任

普光江 佳蓮

サイテラスでは2025年6月より、名古屋・横浜・大阪の3拠点における業務プロセスの統合を目指す業務改革プロジェクトを推進。近年の事業拡大により取扱件数が大幅に増加する中、エンビプログループのDX推進部と連携し、拠点間の垣根を越えた業務体制の構築により、属人化の解消と組織的対応力の強化を図っています。そして、人的資源の最適配置と、持続可能な成長基盤の確立を目指します。

プロジェクトでは各拠点の業務プロセスを約10段階に細分化し、拠点ごとの運用の違いを可視化。それを細かく分析しながら、営業部門との連携方法や業務手順の標準化に向けた検討を進めています。在宅勤務環境においてもリモートツールを活用し、拠点を越えた情報共有と相互支援の仕組みを構築しました。その結果、例えば横浜在住のスタッフが名古屋・大阪在住のスタッフの業務をサポートするなど、具体的な成果が生まれています。こうした取り組みにより、各拠点の業務負荷の平準化を目指しています。

2026年の本格実現を目標に、今後は個人依存型の業務体制から組織的なチーム対応へと移行する予定です。これにより、お客様への対応品質と安定性を向上させると同時に、従業員の適切な休暇取得を可能にする健康的な労働環境を実現します。また、全社員の有給休暇消化率80%達成を数値目標に掲げ、ワークライフバランスの改善も図ります。スタッフが時間や心にゆとりを持つことが、サービス品質の向上にもつながると考えています。

プロジェクトではグループ会社との連携も強化し、採用戦略から人事体制整備にわたる専門的支援を受けながら体制強化を進めています。通関業務においては日東化工やNEWS CONなど他グループ会社との協業も進展し、グループシナジーを活かした事業展開を推進しています。こうした業務改革を通じて持続可能な成長基盤を築き、従業員とお客様双方に価値を提供する企業体制の構築を目指します。

イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの成長戦略

エンビプログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション